

(26) 環境DNAを活用した関空島周辺の藻場魚類 (カサゴ、キジハタ)の分布調査法の確立

予算

一般財団法人関西空港調査会 2018年度調査研究助成事業

概要

関空島は生物多様性に配慮した傾斜護岸として造成され、魚類の貴重な生息の場となっている。過去に魚類の分布調査が行われてきたが、コストも時間も掛かる。近年、低コストで行える環境DNAによる魚類分布調査手法が開発され、2017年度の研究では関空島周辺から環境DNAの検出に成功した。本研究では環境DNAの動態を明らかにするため、異なる条件でキジハタを収容した水槽水の測定を行った結果、総全長(収容個体の全長の総和)と環境DNA量との間に関係が見られ、密度推定に必要な知見を得た。また、異なる時期において関空等周辺の濃度を測定した結果、冬季に表層で濃く、夏季には底層で検出され、分布調査に必要となる情報を得た。なお、詳細については報告書に取りまとめた。

http://www.kar.or.jp/pdf/jyosei/2018/2018report_jyosei2.pdf

担当者

辻村浩隆、山中智之